



決め手は、青森県産。

りんご生産情報第5号
(6月3日～6月23日)

令和5年6月2日発表
青森県「攻めの農林水産業」推進本部



良果を見極め、早めに仕上げ摘果を行う！
「6月中旬」の薬剤散布は6月17～18日頃!!
腐らん病多い、見つけ次第、適切な処置を!!!

I 概要

6月1日現在の果実肥大は、各品種とも平年を大きく上回っている。

総じて結実量は確保されている。果実の形質を見極めた上で、品種別の標準的な着果程度を目安に、できるだけ早く仕上げ摘果を行う。

「6月中旬」の薬剤散布は、黒石、弘前、三戸で6月17～18日頃に実施する。散布むらが生じないように基準散布量を守り、降雨前の散布を徹底する。

本年も腐らん病の発生が多い状況が続いている。枝腐らんは6月以降も発病してくるので、見つけ次第切り取り、胴腐らんは再発病斑を含め、適切に処置を行う。

II りんご生産情報

1 果実肥大、結実状況、作業の進み、病害虫の動き

(1) 果実肥大

本年は、各品種とも果実肥大は平年を大きく上回っている。

○果実肥大

(6月1日現在、横径cm、平年比%)

地 域	年	つがる	ジョナゴールド	ふ じ
黒 石 (りんご研究所)	本 年	2.8	3.0	2.7
	平 年	1.9	2.0	1.6
	前 年	2.5	2.8	2.5
	平年比	147	150	169
青森市浪岡 (東青地域県民局)	本 年	2.4	-	2.1
	平 年	1.7	-	1.3
	前 年	2.4	-	2.1
	平年比	141		162
弘前市独狐 (中南地域県民局)	本 年	2.9	2.7	2.5
	平 年	1.9	1.8	1.4
	前 年	2.5	2.5	2.1
	平年比	153	150	179
板柳町五幾形 (西北地域県民局)	本 年	2.7	-	2.6
	平 年	1.8	-	1.5
	前 年	2.2	-	1.8
	平年比	150		173
三戸町梅内 (三八地域県民局)	本 年	2.9	2.8	2.5
	平 年	1.7	1.7	1.5
	前 年	2.6	2.7	2.2
	平年比	171	165	167

注) 各県民局のデータは農業普及振興室の生育観測ほ調査データ

(2) 結実状況

総じて結実量は確保されている。

(3) 作業等の進み (5月31日現在)

世界一や金星等の小袋かけが行われている。

ふじ等の一つ成り摘果が行われている。

(4) 病害虫の動き

(5月31日現在 りんご研究所)

腐らん病	摘果後の果柄感染継続中
黒星病	葉・果実とも分生子による2次感染継続中 感染危険度は農なび青森 (https://www.nounavi-aomori.jp) に掲載中 殺菌剤無散布の県予察圃での新梢葉発病葉率(ふじ) (本年:5月30日20.8%、平年:11.6%)
斑点落葉病	まもなく葉の病斑がみられる(平年:6月24日)
褐斑病	葉の病斑初発(本年:5月29日、平年:6月22日)
ハダニ類	卵～成虫が混在、幼虫～成虫が葉を加害中
リンゴコカクモンハマキ	まもなく越冬世代成虫の羽化が始まる (成虫初発 平年:6月4日)
モモシンクイガ	越冬世代成虫の羽化が始まる (成虫初発 本年:5月29日、平年:5月28日)
ナシヒメシンクイ	越冬世代成虫の羽化はほぼ終了 (成虫終息 平年:6月4日)
キンモンホソガ	老齢幼虫～蛹主体、まもなく第1世代成虫の羽化が始まる (第1世代羽化50% 平年:6月18日)
クワコナカイガラムシ	越冬世代幼虫の移動がほぼ終了 (移動終息 平年:6月2日)

2 作業の重点

(1) 摘果

摘果が遅れたり、着果量が多いと、玉伸びだけでなく花芽形成などに悪影響を及ぼすので、さびなどの障害がない果実を見極めながら、品種別の標準的な着果程度を目安に、できるだけ早く仕上げ摘果を行う。

原則として果実は2～4年枝上に着生した頂芽に成らせる。葉が多く付いた果そうになった果実で、つる(果柄)が太く長く、肥大が良好で形の良いものを残す。枝の下面に成った果実や、逆さ実、果台が長い果実(ふじではおよそ2cm以上)はできるだけ摘み取る。

中心果が欠落したり、形質が悪い場合は、側果の中から形質の良いものを残す。結実量が少ない場合は、樹勢調節のために発育や形が悪い果実でも残す。霜による被害がごく軽微(果柄の傷など)であれば側果ではなく中心果を残す。

品種別の標準的な着果程度

品 種	摘果の強さ (残す果実)	着果率 (%)
紅玉	3頂芽に1果	33
つがる、ジョナゴールド	3.5頂芽に1果	29
ふじ、王林、早生ふじ、トキ、シナノゴールド、 きおう、金星、シナノスイート、未希ライフ、 ぐんま名月、星の金貨、千雪、夏緑、恋空、祝、花祝	4頂芽に1果	25
北斗	4.5頂芽に1果	22
陸奥・世界一	5頂芽に1果	20

(2) 薬剤散布

ア 追加散布

「6月中旬」までの散布間隔があくため、追加散布を実施する。

なお、農薬の年間使用回数を超えないように十分注意する。デランフロアブルは極早生品種には使用しない。

追加散布「ふじの落花30日後頃」

地域	散布時期	基準薬剤	散布量/10 a
黒石	6月4～5日頃	炭酸カルシウム水和剤	4 2 0 0
弘前 三戸		デランフロアブル 1,500倍 又はチウラム剤 500倍 (チオノックフロアブル トレノックスフロアブル) 又はマンゼブ剤 600倍 (ジマンダイセン水和剤 ペンコゼブ水和剤) 又はアントラコール顆粒水和剤 500倍 又はパスポート顆粒水和剤 1,000倍 又は有機銅剤 (キノンドー顆粒水和剤 1,000倍) オキシンドー水和剤80 1,200倍	

イ 「6月中旬」の薬剤散布

「6月中旬」の薬剤散布は、黒石、弘前、三戸で6月17～18日頃実施する。

この時期からモモシンクイガの防除剤を毎回使用する。

散布むらが生じないよう基準散布量を守り、降雨前の散布を徹底する。

「6月中旬」

地域	散布時期	基準薬剤	散布量/10 a
黒石	6月17～18日頃	炭酸カルシウム水和剤	100倍
弘前 三戸		アントラコール顆粒水和剤 500倍 又はパスポート顆粒水和剤 1,000倍 又はラビライト水和剤 500倍 又はチウラム剤 500倍 (チオノックフロアブル) (トレノックスフロアブル) 又は有機銅剤 (キノンドー顆粒水和剤 1,000倍) (オキシンドー水和剤80 1,200倍)	5000

(3) 腐らん病対策

本年も発生が多い状況が続いている。腐らん病は感染してから1～2年後に発病するため、適切な対策を速やかに講じることが重要である。

枝腐らんは、6月以降も発病してくるので、見つけ次第切り取り、適切に処分する。

摘果後のつる（果柄）から侵入・感染するので、果台につるが残らないようにする。腐らん病の発生が多い園地では、果柄感染を防ぐため、「6月中旬」にラビライト水和剤500倍を選択する。

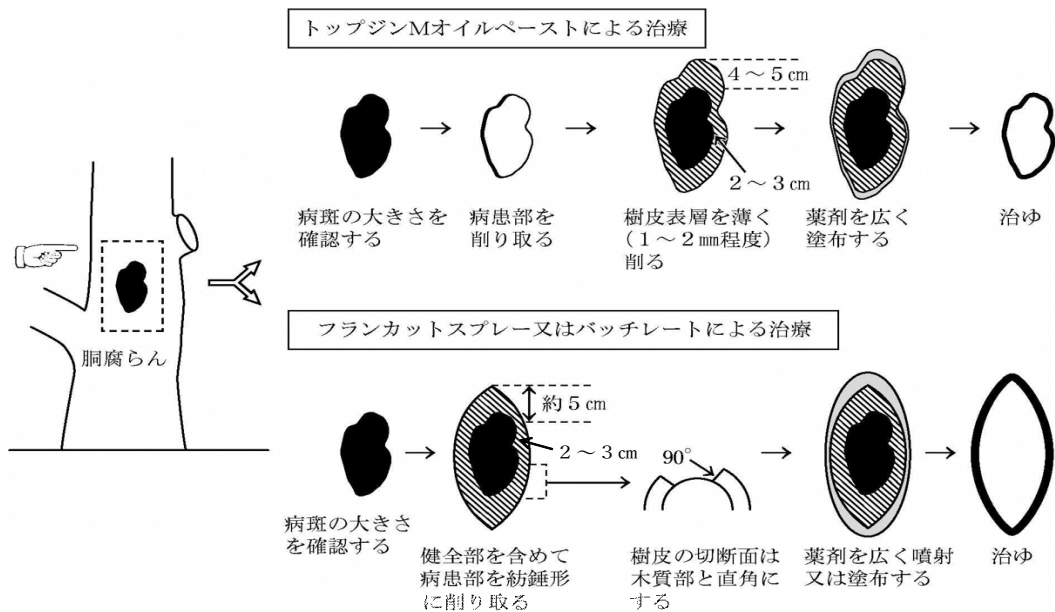
胴腐らんは、処置が不十分であったり、誤った処置が行われている園地もみられるので、再発病斑を含め、次のいずれかの方法で適切に処置を行う。

ア トップジンMオイルペースト、フランカットスプレー又はバッチレートを使う場合は、下図のとおり薬剤ごとに適切な方法で処置を行う。

イ 泥巻きを行う場合は、水を加えて団子状にこねた泥を病斑部よりも5～6cm広めに、3～5cmの厚さに貼り付ける。さらにその上をビニール又はポリエチレンフィルムなどで被覆し、内部の泥の乾燥を防ぐようにして約1年間そのまましておく。病斑部を軽く削り取ってから泥巻きを行うと一層効果的である。

なお、火山灰土壌を使用する場合は、容積比で土が9に対してベントナイト（土壌改良資材の一種）1を加えてこねると粘着性が増し、泥巻き作業の効率が良くなる。泥を作るには、土とベントナイトをよく混ぜてから水を入れて練る。この際、ベントナイトは量が多すぎると樹皮が腐敗し、治ゆ効果も低下するので、加える量を誤らないようにする。

ウ 胴腐らんの発病が著しい樹は、伝染源になるので積極的に伐採する。



削り取り法による胴腐らん治療の作業手順

(4) 黒星病対策

一部園地で発生が見られていることから、自園地の状況を確認し、被害葉、被害果は見つけ次第摘み取り、適切に処分する。

(5) 輪紋病対策

枝幹上のいぼ皮病斑が伝染源となるので、削り取ってトップジンMペーストを塗る。削り取りができない細い枝は、見つけ次第切り取り、適切に処分する。

(6) うどんこ病対策

伝染源の密度を下げるため、白い粉に覆われた被害花そう・葉そうは、見つけ次第、枝ごと摘み取り、適切に処分する。

(7) 有袋栽培におけるすす斑病対策

袋かけ前の薬剤散布が特に重要なので、散布間隔をあげ過ぎないようにし、果実にも薬液が十分付着するようにする。薬剤散布後5日以内を目安に袋かけを行い、その後も袋かけを継続する場合は、次の定期散布までの間に、有効な薬剤による特別散布（実洗い）をしてから行う。

(8) シンクイムシ類対策

被害果は見つけ次第摘み取り、適切に処分する。

もも、なし、日本すもも、プルーン、マルメロなども発生源になるので、適切な管理を行う。

(9) ハダニ類対策

発生動向を見極めながら適正な防除を行う。散布の目安は1葉当たり2個体以上あるいは寄生葉率50%以上である。殺ダニ剤は薬剤抵抗性が出やすいので、年2回以内使用のものでも年1回の使用とする。

ダニサラバフロアブル、スターマイトフロアブル、ダニコングフロアブルは合わせて年1回の使用とする。

ダニオーテフロアブルは銅剤（有機銅剤及びオキシラン水和剤）と混用しない。銅剤を散布した後は使用しない。また、散布後に銅剤を使用する場合は10日以上散布間隔をあける。

リンゴハダニとナミハダニに対する殺ダニ剤の適用表

薬剤名	年間使用回数	リンゴハダニ	ナミハダニ
サンマイト水和剤	1回	○	×
バロックフロアブル	2回以内	○	×
エコマイト顆粒水和剤	1回	○	○
マイトコーネフロアブル	1回	×	○
ダニサラバフロアブル	2回以内	○	×
スターマイトフロアブル	1回	○	×
ダニコングフロアブル	1回	○	×
ダニオーテフロアブル	1回	○	○

○：効果が高い、×：効果が低い

(10) 袋かけ

ふじは有袋にすることで、つる割れの軽減や着色の向上、収穫期の分散ができるほか、販売戦略上も重要なため、個別の労働事情を考慮し、有袋栽培に取り組む。

袋かけは7月10日頃までに終わるようにする。

有袋栽培では、すす斑病やクワコナカイガラムシの防除対策を徹底する。

(11) 乾燥対策

苗木や若木は乾燥の影響を受け易いので、園地の状況を把握し、干天日（降水量5mm未満）が2週間程度続いたら、1㎡当たり20ℓ程度をかん水する。

また、草からの蒸散を防ぐため、草刈りをこまめに行い、樹冠下に敷き草する。

(12) ビターピット防止対策

例年よりも樹勢が強いとみられる場合や、幼果期（6月）の少雨、夏期の高温が予想される場合は、下表によりカルシウム剤を直接果実に付着するように散布する。

樹勢の弱い樹や高温時、あるいは干ばつ時には薬害発生（葉縁褐変）の恐れがあるので避ける。

カルシウム剤の散布方法

資材名	散布時期 (散布間隔)	資材形状	水1000当たり 使用量 (倍数)	散布回数 (回)
スイカル	6月上旬～9月中旬 (10日以上)	粉状	330 g (300倍)	3～5
セルバイン	6月上旬～9月上旬 (10日以上)	粉状	250 g (400倍)	3～5
アグリメイト	6月上旬～9月中旬 (15日以上)	液状	200ml (500倍)	5

3 一般作業

(1) 追肥 (2) 草刈り (3) ひこばえ、徒長枝の整理

4 今後の作業予定 (6月24日～7月5日)

(1) 薬剤散布 (2) 摘果 (3) 袋かけ (4) 草刈り
(5) ひこばえ、徒長枝の整理 (6) 高接ぎ樹の誘引及び捻枝
(7) ビターピット防止対策 (8) マメコバチの巣箱回収

青森県農薬危害防止運動展開中 (6月～8月) !

《 りんご黒星病の予想感染危険日 》

りんご黒星病の予想感染危険日をりんご黒星病防除情報等配信サービスでお知らせしているほか、感染危険度を農ナビ青森 (<https://www.nounavi-aomori.jp/>) に掲載しています。

予想感染危険日は、天気予報から予想した黒星病が感染する危険性が高い日のことです。感染危険日に散布を予定している場合は、気象情報に注意し、降雨前散布を徹底しましょう。

また、感染危険度は過去の気温と湿度のデータから、黒星病の感染の危険性の高さを示しています。

<りんご黒星病防除情報等配信サービス>

配信を希望する方はりんご果樹課のメールアドレス (ringo@pref.aomori.lg.jp)宛てに下記を記載の上、お申し込みください。

メールの件名：配信サービス希望

本文：お住まいの市町村、職業

《 農薬使用基準の遵守 》

農薬を使用する場合は、必ず最新の農薬登録内容を確認する。

○農林水産省「農薬登録情報提供システム」 (<https://pesticide.maff.go.jp/>)

農薬の使用にあたっては、事前に周辺住民に対し、農薬の散布日時や使用者の連

絡先等を十分な時間的余裕を持って知らせる。また、農薬の飛散により、周辺作物や近隣の住宅等に被害を及ぼすことのないように農薬飛散低減対策に留意して散布する。

—— 《 農業保険に加入し、農業経営に万全の備えを!! 》 ——

農業保険には、果樹共済、農業経営収入保険などがあります。自分の経営にあった保険を選択、加入して、自然災害をはじめとしたリスクに備えましょう。

詳しくは、お近くの農業共済組合まで、お問い合わせください。

農作業安全を心がけましょう！

次回の発行は令和5年6月23日（金）の予定です。

連絡先：りんご果樹課生産振興グループ
電話番号：017-722-1111代表
内線5093、5094
017-734-9492直通